

ミステリ読書案内

2020. 1. 8 発行元

第29号 伊藤 剛

ダシール・ハメットの世界その1

ハメットについて2号連続で特集。サミュエル・ダシール・ハメット。ハードボイルド・ミステリの始祖。彼がいたから今のハードボイルドがある。今号では作品を中心に、次号ではハメットの人物像を中心に紹介する。

『ブラック・マスク』からの出発

1910年代後半から20年代にかけてのアメリカでは、「パルプマガジン」と呼ばれるザラザラ紙に印刷された雑誌が流行した。その代表である『ブラック・マスク』誌のスタートは1920年頃。ハメットの最初の短編が掲載されたのが1922年。

当時のパルプ・マガジンに載っている小説の多くは雑多なものであり、ミステリに関して言えば、粗雑で非現実的なメロドラマ風のものが多かったようだ。それらの小説の内容は、ピンカートン社で現実の探偵をしていたハメットにとっては許しがたいものだったろう。肺の病気になる彼は探偵をやめ、文章を書き始めた。

最初の長編『血の収穫』から

作家になったハメット。しばらくの間、雑誌掲載という性質上、短編または中編くらいまでの作品発表が続いた。そんな中から最初の長編『血の収穫』が生まれていった。

鉱山町ポイズンヴィル(毒の街)で巻き起こる勢力争い呼ばれた「名無しの探偵オブ」が、画策をめぐらし、あちこち動き回るうちに、たちまち30人近くの命が奪われる大抗争に発展する話。

『血の収穫』がハードカバー本として出版されたのが1929年。当

時話題となっていたヴァン・ダインのミステリよりも更に注目を集めることとなった。

ハメットの長編は5冊または6冊。右表にまとめてみた。表の6番めに挙げた『ブラッド・マネー』は、雑誌掲載の中編の集まりとも見ることが出来る。

第3作に当たる『マルタの鷹』が、ハメットの完成形と言われている。探偵サム・スペードの相棒であるアーチャーが霧の中で撃ち殺され、16世紀にヨハネ騎士団がカルロス五世からマルタ島を借り受けるのと引き換えに献上したと言い伝えられる鷹の彫像をめぐる事件に巻き込まれていくストーリー。

『デイン家の呪い』も『ガラスの鍵』も、それなりのレベルに仕上がっている。短編の方は長編の分載を除くと60編ぐらいだろうか。

プライベート・アイ(私立探偵)としての役割は、コンチネンタル探偵社の名無しのオブ(探偵の意味)とサム・スペードの2人である。

ハメットは1961年まで生きた。しかし、戦後は文を書くことから離れてしまった。その辺のことは次号で触れられれば良いのだが。

ハードボイルドの誕生として

いろいろな場面で議論に取り上げられる、ミステリの中の一分野としての「ハードボイルド」。これがどのようなものなのかを理解するに

《ダシール・ハメットの作品》

《長編》

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 血の(赤い)収穫 | 1929年 |
| 2. デイン家の呪い | 1929年 |
| 3. マルタの鷹 | 1930年 |
| 4. ガラスの鍵 | 1931年 |
| 5. 影なき男 | 1934年 |
| 6. ブラッド・マネー | 1943年 |

《日本での短編集》

- | |
|----------------------|
| 1. 探偵コンチネンタル・オブ ポケミス |
| 2. 悪夢の街 ポケミス |
| 3. ハメット傑作集1 創元 |
| 4. ハメット傑作集2 創元 |
| 5. 死刑は一回でたくさん 講談文庫 |
| 6. コンチネンタル・オブ 立風書房 |

短編に関しては、日本では整理された形では出ていない。あちこちに重複があり、未紹介もありという現実。本当は、5~6冊にまとめて、体系的に読めるようになってほしいのだが。

は、ハメットの作品を分析するのが一番正しい方法なのではないだろうか。

後に続くレイモンド・チャンドラーはまた少し違った形のハードボイルドになっているので。ハードボイルドの生まれた時代背景と作者であるハメットの考えを適確に掴むことが大切である。

非情であり、現実的であり、アクションであり、事件の手掛りよりも、人物そのものに迫る捜査方法。登場人物はそれぞれに会話を交わし、策略を巡らしては傷つき、動き回って命を落とす。アメリカ探偵小説としての形が作り上げられた。

ハメットが暮らした1920年代のサンフランシスコの社会。そして、ヘミングウェイなどの新しい文学の流れ。そこで生まれたのが「ハードボイルド」。 (次号へ)

正統派ハードボイルド…ハメットを始祖とするハードボイルド。その後、「ハードボイルド」を名乗る数々の派生形が生まれたが、ハメットが作り上げたハードボイルド・ミステリの真髄を受け継ぐと言われたのが、レイモンド・チャンドラー。他にも、正統的な作家はいるのだが、プラスして語られるのは、ロス・マクドナルド。ということで、「正統派ハードボイルド=ハメット・チャンドラー・マクドナルド・スクール」と呼ばれている。